

春生えの一年生広葉雑草に好評!

●小麦では穂ばらみ期まで使用可能

⇒タデ類など発生の遅い広葉雑草へ、的確な対応が可能です。



タデ類



ゴアカザ

麦の茎葉処理型除草剤



ハーモニー[®] DF

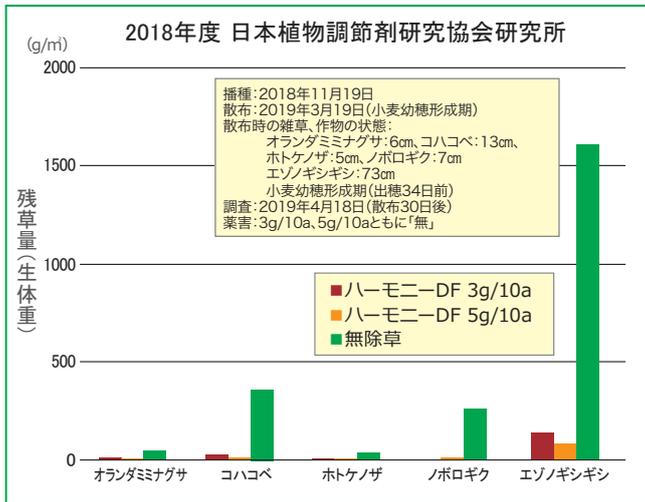
○有効成分：チフェンスルフロンメチル・・・75.0% ○物理化学的性状：類白色水和性細粒 ○人畜毒性：普通物[※] ※毒劇物に該当しないものを指している通称

小麦・大麦 適用範囲 (抜粋)

作物	適用雑草	使用時期・薬量							
		は種後	麦1葉期	麦3~5葉期	幼穂形成期	節間伸長前	節間伸長開始期	穂ばらみ期	(備考)
小麦	一年生広葉雑草	5~10g/10a							
							3~10g/10a	(収穫45日前まで)	
	スズメノテッポウ	5~10g/10a							
	カズノコグサ		10g/10a						
大麦	一年生広葉雑草	5~10g/10a							
	スズメノテッポウ	5~10g/10a							
	カズノコグサ		10g/10a						

本表は小麦・大麦での適用範囲をわかりやすく説明するために作成した便宜的な資料です。ご使用にあたっては、裏面の「使用方法」をご確認ください。

試験成績



殺草スペクトラム

科名	種名	処理時の雑草生育ステージ					
		1~2葉期		3~4葉期		5~6葉期	
		5g/10a	10g/10a	5g/10a	10g/10a	5g/10a	10g/10a
イネ科	スズメノテッポウ	○	●	○	●	△	○
	抵抗性スズメノテッポウ	△	△	×	×	×	×
	スズメノカタビラ	×	△	×	△	×	×
タデ科	カズノコグサ	△	○~●	×	△~○	×	×
	イヌタデ	●	●	●	●	●	●
	サナエタデ	●	●	●	●	●	●
キク科	ハルタデ	●	●	●	●	●	●
	ミチヤナギ	●	●	○	●	○	●
ナデシコ科	ノボロギク	●	●	●	●	●	●
アカネ科	ハコベ	●	●	●	●	●	●
	ノミノスマ	●	●	●	●	●	●
アブラナ科	ヤエムグラ	○~●	●	○	○~●	×	△
	スサタゴボウ	●	●	●	●	○	●
マメ科	ナズナ	●	●	●	●	●	●
	カラスノエンドウ	△~○	○	△	△~○	△	△~○
キンポウゲ科	スズメノエンドウ	△~○	○	△	△~○	△	△~○
	トゲミノキツネノボタン	●	●	—	●	—	—
シソ科	イボミキンポウゲ	●	●	—	●	—	—
	ホトケノザ	●	●	●	●	○	●

● 完全枯死 ○ 実用的な殺草効果であるが、完全枯死せず多少残草
 △ 実用的な効果ではないが、生育抑制は認められる × 効果なし — 未確認

使用方法

2023年8月現在

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	チフェンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
小麦	—	一年生広葉雑草	春播栽培の小麦3~5葉期	3~5g/10a	通常散布 50~100ℓ/10a 少量散布 25~50ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	1回
		ギシギシ類	秋播栽培の幼穂形成期 但し、収穫45日前まで					
		一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	は種後~節間伸長前					
		一年生広葉雑草	節間伸長開始期~穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで					
大麦	—	カズノコグサ	麦1葉期~節間伸長前	10g/10a	通常散布 50~100ℓ/10a 少量散布 25~50ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	1回
		一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	は種後~節間伸長前	5~10g/10a				
牧草	牧野、草地	一年生広葉雑草 ギシギシ類	採草21日前まで (雑草生育期)	3~5g/10a	通常散布 50~100ℓ/10a 少量散布 10~50ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	1回
		ギシギシ類	新播草地定着後 但し、採草21日前まで	0.5~1g/10a				
飼料用 とうもろこし	—	ギシギシ類	耕起7日前まで (雑草生育期)	2~4g/10a	通常散布 50~100ℓ/10a 少量散布 25~50ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	1回
			飼料用とうもろこし2~4葉期 (雑草生育期)	2g/10a				

注意事項 (麦類関連項目を中心に抜粋)

- 所定量の薬剤を所定量の水に加え、よくかき混ぜてから均一に散布してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 調製した薬液は速やかに使用してください。
- 本剤を連年施用するとスズメノテッポウに効果が劣ることがあるので、有効な薬剤との組み合わせ、又は輪番で使用してください。
- 麦類に使用する場合、
 - 必要に応じて展着剤を加用してください。
 - 薬量5~10gで使用する場合、単用処理では、10アール当り7.5~10gでの使用をおすすめします。
 - 体系処理の場合は、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用してください。
 - 春播栽培の小麦に使用する場合、イネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草に有効な薬剤との組み合わせで使用してください。
 - カズノコグサに単用で使用すると効果が劣る場合があるので、必要に応じてイネ科雑草に有効な薬剤との組み合わせで使用してください。
 - 本剤の散布適期はスズメノテッポウ5葉期まで、カズノコグサ1~3

葉期であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失しないように散布してください。

- 砂土では使用しないでください。
- 散布直後に降雨が予想される場合は使用をさけてください。
- 少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害を生じることのないように十分注意して散布すること。なお、必要に応じて飛散防止ノズルを使用して散布してください。
- 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内外に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く水でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意してください。
- 散布器具や容器の洗浄水は河川等に流さず、環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。

お求めは…

販売元



丸和バイオケミカル株式会社

- 本社 / 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-19-23
TEL 03-5296-2314
 - 札幌 / TEL 011-222-1285 ■ 仙台 / TEL 022-261-1103
 - 名古屋 / TEL 052-951-7234 ■ 大阪 / TEL 06-6484-6850
 - 福岡 / TEL 092-714-7101
- <https://www.mbc-g.co.jp>

お問い合わせ窓口 / TEL 03-5962-9731 (9時~17時 土日祝を除く)